

文学部A方式 I 日程・経営学部A方式 I 日程・人間環境学部A方式

3 限 選択科目 (60分)

科目	ページ	科目	ページ	科目	ページ
政治・経済	2～24	日本史	26～44	世界史	46～59
地理	60～72	数学	74～79		

〈注意事項〉

1. 試験開始の合図があるまで、問題冊子を開かないこと。
2. 解答はすべて解答用紙に記入しなさい。
3. 科目の選択は、受験しようとする科目の解答用紙を選択した時点で決定となる。一度選択した科目の変更は一切認めない。
4. 数学については、定規、コンパス、電卓の使用は認めないので注意すること。
5. マークシート解答方法については、以下の注意事項を読みなさい。

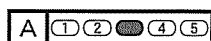
マークシート解答方法についての注意

マークシート解答では、鉛筆でマークしたものを機械が直接読みとって採点する。したがって解答はHBの黒鉛筆でマークすること(万年筆、ボールペン、シャープペンシルなどを使用しないこと)。

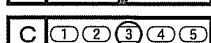
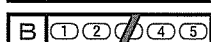
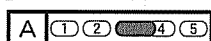
記入上の注意

1. 記入例 解答を3にマークする場合。

(1) 正しいマークの例



(2) 悪いマークの例



枠外にはみださないこと。

○でかこまないこと。

2. 解答を訂正する場合は、消しゴムでよく消してから、あらためてマークすること。
3. 解答用紙をよごしたり、折りまげたりしないこと。
4. 問題に指定された数よりも多くマークしないこと。

6. 問題冊子のページを切り離さないこと。

(世界史)

〔I〕 つぎの文を読み、下記の問いに答えよ。

395年、テオドシウス1世の死により、ローマ帝国東部はその長男に、西部は次男に継承された。「ローマ帝国の東西分裂」とされる出来事だが、法理論的にはローマ帝国はなお一つの国家であった。476年に「西ローマ帝国の滅亡」⁽¹⁾と言われる出来事が起こっても、帝国東部はなお健在であった。そして、歴史的過程の中で古代ローマ帝国とは様相を変えながらも1453年まで存続したその帝国を、後世の人々は帝都の旧称にちなんで 帝国と呼んだ。

それでも7世紀初頭までの帝国はなお古代ローマ帝国の枠組みの中にあった。失われていた西方領の回復を推進し、 を編纂させたユスティニアヌス帝は、「最後のローマ皇帝」と呼びうるだろう。だが6世紀末～7世紀初頭、帝国を取り巻く状況は急速に悪化する。スラヴ諸族やアヴァール人がドナウ国境を越えてバルカン諸州を徐々に侵略し、東方では300年近くにわたり抗争を繰り返してきた⁽²⁾ 大国⁽³⁾ が610年代、シリア・パレスチナを奪い、エジプトのアレクサンドリアも占領した。610年に即位したヘラクレイオス帝は、古代ローマ帝国からの伝統であった帝都市民への「パン」の配給を廃止するなどして戦費を調達し、622～628年ペルシアに長期遠征して、ペルシアに占領されていた諸州を奪回した。だが、帝がペルシア遠征に出立したのと同じ年、アラビア半島では が起きていた。新興のアラブ・イスラーム勢力は634年、 帝国への侵入を開始し、ペルシアから奪回されたばかりのシリアからエジプトに至る地方を、わずか10年で手中に収めた。642年の戦いに完勝して⁽⁴⁾ を滅亡に至らしめたアラブ・イスラーム軍は、674～678年、717～718年と、 帝国の帝都を攻撃する。だが帝国は、首都を守る大城壁、生石灰・松脂・硫黄等を混合した新兵器「ギリシアの火」、そして侵入するアラブ軍に対応してアナトリア(小アジア)で導入されたテマ(軍管区)制度などにより、この危機を⁽⁵⁾切り抜けた。このような経過の中で、帝国は古代ローマ的要素を捨てて変貌して

いった。

717年春に即位しアラブ軍による帝都包囲を撃退したレオン3世は、死去する前年の740年にもアラブ軍に決定的打撃を与えた一方で、726年に を出して、 帝国とローマ教皇の関係を悪化させた。両者は中東欧地域への布教をめぐっても争い、⁽⁶⁾ポーランド人やチェコ人など西スラヴ人の多くがローマ＝カトリックを受容したのに対し、バルカン半島に南下した南スラヴ人の多くは、 帝国と種々の関係を結ぶ中で、ギリシア正教を受容した。7世紀末にバルカン東南部に建国され、 帝国と戦った⁽⁷⁾ブルガリア王国も、9世紀にギリシア正教に改宗した。さらに、9世紀半ばに⁽⁸⁾キエフ＝ロシアによる帝都襲撃を受けた 帝国は、彼らもキリスト教に改宗させようと働きかけ、キエフ大公 は 皇帝の妹と結婚し、ギリシア正教に改宗した。ギリシア正教の布教に大きな貢献をしたのは、スラヴ語の音を表すため9世紀末～10世紀始め頃に考案されたと思われる、 文字であった。この文字は現代のブルガリア語、セルビア語、ロシア語などの文字となっている。こうして、ギリシア正教を始めとする 文明を基盤として、東欧世界が形成されていった。

問1 文中の空欄 ～ に入る最も適切な語を解答欄に記入せよ。

問2 下線部(1)に関連して、476年に幼い西帝を廃位して、皇帝の標章を東帝に返還したゲルマン人傭兵隊長は以下のa～dのうち誰か。その記号を解答欄にマークせよ。

- | | |
|---------|----------|
| a アッティラ | b アラリック |
| c オドアケル | d テオドリック |

世界史

問3 下線部(2)のアヴァール人に関する記述として正しいものを以下のa～dから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- a 中部ヨーロッパに進入したアルタイ語系の遊牧民で一時期強盛を誇ったが、ザクセン朝のオットー1世に敗れて弱体化した。
- b アルタイ語系の遊牧民で、中部ヨーロッパに進入後は先住のスラヴ人と同化し、やがてハンガリー王国建国の中心となった。
- c 6世紀頃ドナウ流域に定住したアルタイ語系の遊牧民で、一時期中部ヨーロッパで強盛を誇ったが、カール大帝に討たれた。
- d ドナウ流域に南下してきたノルマン人の一派で、その一部は西進したがカール大帝に討たれた。

問4 下線部(3)について、この抗争に関する記述として正しいものを以下のa～dから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- a この抗争の中で五賢帝時代末期に派遣された東方遠征軍が、ローマ領内に疫病を持ち帰った。
- b 3世紀半ばのローマ皇帝ウァレリアヌスが、シャープール1世との戦いに敗れて捕虜となった。
- c 3世紀半ばのローマ皇帝ウァレリアヌスが、アルダシール1世との戦いに敗れて捕虜となった。
- d 最盛期の王ホスロー1世は、ユスティニアヌス帝との抗争には敗れた。

問5 下線部(4)について、この戦いは何と呼ばれるか。以下のa～dから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- a アイン＝ジャールートの戦い
- b アドリアノーブルの戦い
- c カタラウヌムの戦い
- d ニハーヴァンドの戦い

問6 以下のa～dのうち、下線部(5)の制度に関する記述として正しいものはいくつあるか。その数を解答欄にマークせよ。

- a 軍事と民政を分離し、各テマ(軍管区)の長官が領土防衛に専念できるようにした。
- b 各テマ(軍管区)の長官は、その地域の軍事・民政の全権を与えられた。
- c この制度のもとで、兵士は一定の土地を分与され、世襲の兵役義務を持つ農民兵として国土防衛にあたった。
- d 各テマ(軍管区)の有力貴族は、皇帝に軍事奉仕する代償として国有地の用益権や租税徴収権を与えられた。

問7 以下のa～dのうち、下線部(6)のポーランド人に関する記述として正しいものはいくつあるか。その数を解答欄にマークせよ。

- a 14世紀のポーランド王カジミエシュ3世は、ドイツ人の入植を奨励した。
- b 14世紀のポーランド王カジミエシュ3世はワルシャワ大学を創設するなどして、学問も奨励した。
- c 14世紀のポーランド王カジミエシュ3世は、カトリック教国の王としてユダヤ人を迫害した。
- d 14世紀末にポーランド女王とリトアニア大公の結婚により成立したヤギェヴォ朝のもとで、東欧に勢力を誇った。

世界史

問8 以下のa～dのうち、下線部(7)のブルガリア王国に関する記述として正しいものはいくつあるか。その数を解答欄にマークせよ。

- a トルコ系遊牧民であったブルガール人が建国したが、ブルガール人は時とともに数的に優勢なスラヴ人に同化していった。
- b トルコ系遊牧民であったブルガール人が建国し、数で勝るスラヴ人を隷属農民として支配しつつ、発展していった。
- c 領土を拡大していき、10世紀始め、「皇帝」を称したシメオン1世のもとで最盛期を迎えた。
- d 11世紀には 帝国に征服され、その後、再独立を果たしたが、14世紀末にはオスマン帝国に征服された。

問9 下線部(8)について、キエフ＝ロシア(キエフ公国)に関する記述として正しいものを以下のa～dから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- a 東スラヴ人を代表するロシア人が9世紀、ノルマン人が建てたノヴゴロド王国を征服して建国した。
- b 9世紀にノルマン人の族長リューリクが建国したが、早くからスラヴ人との同化が進んだ。
- c 9世紀に、ノルマン人の族長リューリクの後継者オレーグが建国したが、早くからスラヴ人との同化が進んだ。
- d 13世紀に、フラグの遠征により滅亡した。

〔Ⅱ〕 ある人物の経歴について記した〈A〉と、その人物の東京留学時代の日記を抜粋した〈B〉を読んで、下記の問いに答えなさい。

〈A〉

1898年、中国の江蘇省で、県の下級官僚の家庭に生まれた。幼くして両親を失い、伯父と一時、瀋陽で暮らす。1917年、天津の南海中学を卒業後、費用を何とか捻出して日本に留学⁽¹⁾、神田の東亜高等予備学校に入学して日本語を学ぶとともに、各種の近代的な文物に接した。1919年4月に帰国、ほどなく巻き起こった一大民族運動⁽²⁾に主導的に関与したのち、翌1920年、今度は働きながら学ぶ苦学生としてフランスに渡った。在仏中、中国共産党に加入し、在欧支部の指導者となる。1924年に帰国し、広州に開校した黄埔軍官学校⁽³⁾の政治部主任などに就任した。

国民党との蜜月関係が崩れた1920年代末以降は、中国共産党の最高指導者の一人として、各種の革命運動を組織。長征⁽⁴⁾の過程で、それまでのソ連留学派らによる共産党の方針を「極左冒険主義」と批判、a を中核とする新指導部の形成に重要な役割を果たした。1936年、陝西省の西安で、抗日に消極的な蒋介石をbらが軟禁する事件が起きると、共産党の代表として現地に赴き、平和的な解決に尽力した。

抗日戦争の勝利後に再燃した内戦では、共産党の勝利に大きく貢献、1949年の中華人民共和国の成立により総理兼外交部長に就任した。内政では常にaを支えつつ、外交でも卓越した手腕を発揮した。たとえば、第三世界の国々との平和的な関係構築を図る1954年の平和五原則や翌年のアジアカンファレンス⁽⁵⁾、同じ社会主義国とはいえ対立の様相が顕著になったソ連との関係調整、西側諸国との関係改善、などが挙げられる。

(8) 多忙な日々を過ごす中で、プロレタリア文化大革命最末期の1976年1月に死去。彼を追悼する花輪の撤去をめぐる、民衆と公安当局が衝突する第一次天安門事件が発生した。誠実な人柄や、清廉潔白な政治家として、国の内外から広く敬愛されている。

世界史

- ・1918年1月29日：日本に来てからすでに四カ月余りたつが、日本文も、日本語も少しも上達していないと思う。勉強だ、勉強だ、時間はもはや私を待ってくれはしないのだ。
- ・1918年1月30日：友人二人が東三省のことをいろいろと話す。聞いていて、大きな感慨を催す。東三省のことを考えると、現在ほとんどすでに日本とロシアの勢力圏に組み込まれてしまっている。現在の国勢をもって論ずれば、東三省を救うのは非常に難しいが、救わなければ中国全土の危険に関わる。
- ・1918年2月4日：留学生は日本の国情を必ず知るべきだ。古人は、「己を知り彼を知れば百戦百勝」と、うまいことを言っている。最も奇怪なのは、日本人と付き合っている者を目にとると、一部の留学生が漢奸と罵ることだ。
- ・1918年2月15日：朝、『新青年』を読み、夜、帰ってからまた読む。 c
排斥、文学革命の諸主義に心から賛成す。
- ・1918年5月7日：国恥記念。早稲田大学の中国留学生は昨日、授業を放棄して帰国することを決議した。昨日、各省の同窓会の幹事、代表は宴会を名目に「維新号」(中華料理屋)に集まり、帰国総機関幹事を選出した。そのあと、日本の警察に拘束されたが、まもなく釈放された。
- ・1918年6月21日：夕方六時、友達が相次いで来て、吉野博士を訪ねるが、会えず、帰る。

問1 下線部(1)の瀋陽は、世界史にしばしば登場する。この都市の説明として誤っているものを以下の1～4から一つ選び、その番号を解答欄にマークせよ。

- 1 高句麗の広開土王碑は、この都市の郊外にある。
- 2 ヌルハチが後金を建て、やがてここに都を置いた。
- 3 この都市の近郊で、満州事変の発端になった事件が起きた。
- 4 ハルビンから旅順・大連へと南下する東清鉄道支線がここを通る。

問2 下線部(2)に関連して、中国から日本への留学について述べた文章として誤っているものを以下の1～4から一つ選び、その番号を解答欄にマークせよ。

- 1 日本への留学熱は、日清戦争における自国の敗北がひとつの契機となって盛り上がった。
- 2 近代中国を代表する文豪の魯迅も日本に留学に来て、当初は医学を学んだ。
- 3 留学生たちは勉学目的で来日していたので、亡命中国人が日本で展開していた清朝打倒の運動とは無縁だった。
- 4 プロレタリア文化大革命が始まると中国国内が大混乱に陥り、海外留学は困難となった。

問3 下線部(3)にある一大民族運動の名称を解答欄に記入せよ。

問4 下線部(4)に関して、この人物がフランスに渡ったのは、第一次世界大戦が終結し、新たな世界秩序が構築されつつある時期だった。1920年前後のフランスについて述べた文章として誤っているものを以下の1～4から一つ選び、その番号を解答欄にマークせよ。

- 1 第一次世界大戦終結についての戦勝国間の会議が、パリで開催された。
- 2 普仏戦争の結果ドイツ領になっていた地域のフランスへの割譲が、ヴェルサイユ条約で決められた。
- 3 フランスが、新設された国際連盟の常任理事国の一つになった。
- 4 セーヴル条約の結果、イラクがフランスの委任統治領とされた。

問5 下線部(5)は、中国国民党の軍官学校である。共産党員であるこの人物が国民党機関の要職に就くような両者の協力体制を、何というか。解答欄に漢字4文字で記入せよ。

世界史

問6 下線部(6)の長征に関して述べた文章として誤っているものを以下の1～4から一つ選び、その番号を解答欄にマークせよ。

- 1 国民党軍による数次の攻撃を受け、江西省瑞金にあった革命根拠地を放棄、長征が始まった。
- 2 長征は国民党軍と戦闘を繰り返しながら長距離を移動するもので、期間も約2年の長きにわたった。
- 3 長征の期間中に、国民に一致して抗日救国を呼びかける八・一宣言が発せられた。
- 4 長征完了後は、奥地の重慶が共産党の中心的な根拠地になった。

問7 <A>の文中の空欄 に入る最も適切な人名を、解答欄に漢字で記入せよ。

問8 <A>の文中の空欄 に入る最も適切な人名を、以下の1～5から一つ選び、その番号を解答欄にマークせよ。

- 1 朱徳
- 2 蔣経国
- 3 張学良
- 4 張作霖
- 5 孫文

問9 下線部(7)のアジア＝アフリカ会議の開催国を以下の1～5から一つ選び、その番号を解答欄にマークせよ。

- 1 フィリピン
- 2 インドネシア
- 3 タイ
- 4 エジプト
- 5 南アフリカ

問10 下線部(8)の西側諸国との関係改善の一環として、日本との間でも国交が正常化された。この時の日本の首相名を、解答欄に漢字で記入せよ。

問11 下線部(9)の東三省とは、前後関係からどこのことと判断できるか。以下の1～5から一つ選び、その番号を解答欄にマークせよ。

- 1 シベリア
- 2 モンゴル
- 3 山東半島
- 4 河北
- 5 満州

問12 下線部(10)の漢奸とは、民族反逆者や売国奴を意味する言葉である。のちに日本の傀儡政権の主席に就任したため、漢奸扱いされてきた人物を以下の1～5から一人選び、その番号を解答欄にマークせよ。

- 1 陳独秀 2 林彪 3 汪兆銘 4 劉少奇 5 宋教仁

問13 の文中の空欄 に入る最も適切な語句を以下の1～5から一つ選び、その番号を解答欄にマークせよ。

- 1 仏教 2 孔子 3 外国
4 西洋文明 5 マルクス主義

問14 の1918年5月7日の項に記述された行動は、数年前に起きたある出来事に対して、集団で抗議の意思を表示したものと考えられる。この数年前の出来事を以下の1～5から一つ選び、その番号を解答欄にマークせよ。

- 1 二十一カ条の要求 2 ロシア革命 3 シベリア出兵
4 山東出兵 5 米騒動

問15 下線部(11)の吉野博士とは、吉野作造のことである。当時の日本社会では、自由や民主主義を求める動きが強まり、その代表的な主唱者の吉野自身も中国や朝鮮からの留学生とも密接な交流をもちながら、東アジアの現状改革を訴える論陣を張った。この時期の日本で起きた自由や民主主義を求める動きを指す用語として最も適切なものを、以下の1～5から一つ選び、その番号を解答欄にマークせよ。

- 1 東亜新秩序 2 大正デモクラシー 3 文化政治
4 自由民権運動 5 新文化運動

問16 <A>の内容から、設問冒頭で言われる「ある人物」とは誰かを判断して、その人名を解答欄に漢字で記入せよ。

世界史

〔Ⅲ〕 つぎの文を読み、下記の問いに答えよ。

ユーラシア大陸の西端では、15世紀の後半にさまざまな変化の波がおこり、新しい時代が始まったとされる。中世的秩序を支えていたローマ教皇庁の権威を否定する運動も起こり、⁽¹⁾諸地域の権力秩序は変化を余儀なくされ、その後17世紀前半にかけて、自立性をもった国家が並び立つ国際秩序が徐々に形作られていった。⁽²⁾フランス王国を中心にこの時代を見てみよう。

フランスの王たちは、15世紀末から を舞台にハプスブルク家との間で戦いを繰り返してきたが、この戦争は両家を破産に追い込み、1559年の でしょうやく終わりを告げた。しかし、平和は長く続かず、1562年には内乱が勃発する。フランス国内に広まったプロテスタントとカトリックとの対立が原因であるが、そこには大貴族間の敵対関係や介入する諸外国の利害が複雑に絡み合っていた。30年以上にわたって波状的に続いたこの内乱を終結させた国王は、⁽³⁾ である。彼はプロテスタントからカトリックに改宗し、カトリックとプロテスタントを共存させる法を定めた。⁽⁴⁾

16世紀のフランスは、戦争と内乱に明け暮れたが、この間に宗教的相違よりも王権のもとで国家の利害を優先させる考え方が生まれてきた。こうした考え方ははっきりと示されたのは、ルイ13世のもとで三十年戦争に参戦したときである。この戦争は、1618年に のプロテスタントがカトリックのハプスブルク家の支配に抵抗したことに端を発しており、当初は宗教戦争という性格を色濃く持っていた。しかし、1635年にカトリックのルイ13世は、ハプスブルク家との対抗から公然とプロテスタント側で戦争に参加したのである。国外だけではなくフランス国内にも王の決断を非難する声があがった。宗教よりも国家の利害を優先させる考え方は当時の人々には新しく、スキャンダラスなものと思えられたからである。

しかし、国家を優先するこうした考え方が新たに現れてきたといっても、近世の「国家」が現在と異なる性格を持っていたことを忘れてはならない。死亡率の高い当時にあっては一夫一婦制のもとで王位継承者を安定的に確保することは難しく、王朝が断絶する事態は珍しいことではなかった。そのため近世ヨーロッパに

おいては、複数の国が一人の君主を戴く E は広く見られたし、姻戚関係にある他国が王位継承権を要求して戦争の引き金となることはよくあること⁽⁵⁾であった。また、戦後の和平条約には、王家同士の婚姻の取り決めが加えられることも多かった。それぞれの思惑で結ばれた王家の婚姻は、近世のヨーロッパに複雑な姻戚関係・国際関係を作り出したのである。フランス王国も例外ではない。

ルイ13世が王位についたとき、彼はわずか8歳であり、母のマリ・ド・メデイスが摂政となった。その息子のルイ14世が王位を継いだときも、母のアンヌ・ドートリッシュが摂政をつとめている。幼い王と外国生まれの摂政を戴くこうした時期には、王権のこれまでの政策に対するさまざまな抵抗が国内からおこった。たとえばルイ14世の治世初期には「フロンドの乱」が起こり、幼い王は混乱するパリを離れなくてはならなかった。この経験は、後年彼がパリから20キロ離れた F に壮麗な宮殿を建てた遠因であったともいわれている。成人となったルイ14世は、この宮殿に政治の拠点を移して、王権神授説を基に王の権威を高めるさまざまな政策を遂行した。ルイ14世のこの長い治世は、絶対王政の典型といわれ⁽⁶⁾ている。しかし、その王にして、最後の大戦争が自らの孫をスペイン王位につけるための継承戦争であったことは、近世王朝国家の特徴をよく示す事例といえるであろう。

問1 下線部(1)の運動に関わっていない人物を、以下のa～dから一人選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- | | |
|---------|----------|
| a カルヴァン | b ツヴィングリ |
| c ボッカチオ | d ルター |

問2 下線部(2)の国際秩序はどのように呼ばれるかを、解答欄に記入せよ。

問3 下線部(3)について、この内乱でプロテスタントを支援した国を以下のa～dから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- | | |
|------------|-----------|
| a イングランド王国 | b スペイン王国 |
| c ナポリ王国 | d ポルトガル王国 |

世界史

問4 下線部(4)の法のその後に関する説明として最も適切なものを以下のa～dから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- a この法はフランス革命に至るまで王国の方針として尊重された。
- b この法があったおかげで、フランスではいち早く啓蒙主義が花開いた。
- c この法は1685年に廃止され、多くのプロテスタント亡命者をうみだした。
- d この法は、三十年戦争によって宗派の違いが意味を失ったことで形骸化した。

問5 下線部(5)に関わる以下の史料を読み、この史料が伝える条約の名前を解答欄に記入せよ。

「永久に不可侵で常に遵守されるべき法であるこの継承権放棄によって、カトリック王(スペイン王)とその一族の王子は誰もフランス王位を望むことも王位に上ることもできないと定められる。またスペイン王位に対するフランス側の同様の継承権放棄と…他の王位継承取り決めによって、フランスとスペインの王位は、常に分かれたれており、…決して合同されることはない。」

問6 下線部(6)に関して、ルイ14世の政策として最も適切なものを以下のa～dから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- a 全国三部会を定期的にかけて臣民の意見をよく聞いた。
- b 財務総監を中心に官僚を用いて自ら政治を行った。
- c 文芸を重んじ、ラテン語のフランス全土への普及に努めた。
- d 枢機卿を宰相とすることで、ローマ教皇庁の力を利用した。

問7 文中の空欄

A

 ～

F

 に入る最も適切な語句を解答欄に記入せよ。

問8 問題文が語る時代のヨーロッパで活躍した以下の(あ)～(お)の著述家たちの作品を、下記の語群からそれぞれ一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- (あ) デカルト (い) パスカル (う) エラスムス
(え) マキアヴェリ (お) グロティウス

〔語 群〕

- | | |
|-------------|-------------|
| a 『愚神礼讃』 | b 『君主論』 |
| c 『神曲』 | d 『戦争と平和の法』 |
| e 『デカメロン』 | f 『天路歷程』 |
| g 『ドン・キホーテ』 | h 『パンセ』 |
| i 『方法序説』 | j 『リヴァイアサン』 |